

GI登録の「菊池水田ごぼう」春ゴボウ

春ゴボウの出荷が6月で終了。最盛期を迎えた5月には日量3000~4000ケース(1ケース:2キロ)を全国に出荷しました。2L中心で、香り良く柔らかいと好評でした。

市場担当者が収穫体験 情報共有で取引良好

取引のある名古屋中央卸売市場のゴボウ担当者が、収穫や出荷作業などを体験しました。2年前から数回菊池を訪れ、種まきや肥料散布、出荷調整作業なども行い生産現場の手間暇や、品質向上へのこだわりを実感しました。体験をした佐藤さんは「現場の状況が理解でき、JA担当者との電話での取引時に、スムーズにやり取りができるようになった。また、量販店からの要望にも生産側の状況をしっかり伝えることができ、納得してもらえるようになった」と話していました。上野部会長は「2回目の収穫体験は要領も良くなり、ずっと手伝ってほしいくらいだ」と笑顔を見せ「種まきから収穫まで一連の流れを体験し、ゴボウや生産者のこともわかってくれた。市場との情報共有で、販売取引会議も良好に進み、生産者側も栽培に力が入る」と話しました。



ゴボウ査定会



ゴボウの収穫作業を熱心に行う佐藤さん(左)



春メロン秀品率も高く大玉で出荷

適度の雨と寒暖差により、糖度も乗り品質・玉太りも良好で出荷。サイズはSから5Lまでで4L中心で、秀品率も高く、市場でも好評でした。
※秋メロンはアールスメロンを10月に出荷予定です。



北営農センターに集荷されたメロン

未来を見据え面積拡大

アスパラガス部会員で就農6年目の木下彰さん・育世さん夫妻は、栽培面積を20aから35aに拡大。4月に連棟ハウス15aに苗2700本を定植しました。彰さんは「将来、子どもたちに良い経営で引き継げるように頑張っていきたい。地域の担い手が減る中、地域の農地を守りながら、新規就農者も入ってきて根付いてくれたら嬉しい」と話しています。木下さんは、菊池市でアスパラガスの他、カスミソウ14a、水稻3haを栽培しています。父・正道さんが経営していたカスミソウを一部引継ぎ、通年での栽培体系を可能としました。



定植したアスパラガスの苗を観察する木下さん夫妻